

地域のできごと

R2.7

千曲市姨捨の棚田で田植えが行われました！

千曲川を眼下に望む姨捨の棚田は、国で初めて文化財指定を受けた名勝であり、古くから「田毎の月」や「四十八枚田」という名称で知られています。

棚田は狭く不整形な水田ばかりで、機械による田植えが不向きなため、昔ながらの手植えにならざるを得ません。現在、姨捨の棚田を管理している団体は6団体あり、ボランティアや棚田オーナー制度を活用するなどして守っています。

管理団体のうち、5月23日に科野農業塾（会長：緑川英貞氏）、5月31日は姨捨棚田名月会（会長：金井實氏）が田植えを行いました。例年は、都市部等の住民を招いて行っていたのですが、今年は新型コロナウイルス感染症の影響で人の往来が制限されていたため、会員の家族や知人、地元の学生等で田植えを行いました。

科野農業塾は25名が集いました。大人は手慣れたもので、子供達は田植えや苗運びを手伝いました。和気あいあいとした雰囲気の中で、会員と家族らとの交流が図られました。

名月会では、屋代高等学校附属中学校2年生の有志15名が、地域の課題について学ぶため田植え体験を行いました。水田に入ることも初めての生徒が大半でしたが、足をとられる等悪戦苦闘しながらも、浮いてくる苗もなく真っ直ぐ植えることができました。

秋には豊かな実りに恵まれ、人の往来が戻り、都市部との交流が図られる中で稲刈りが行われることを期待しています。



田植え後は和気あいあいと交流（科野農業塾）



中学生の田植え体験の様子（名月会）